



## 駅の無人化反対! 地交線を守ろう!

### JR西日本は、安全・安心・利便性の鉄道を築け!

10月29日、午前中、第一支部(新倉敷駅周辺)、第三支部(笠岡駅周辺)に於いて、「駅無人化反対 宣伝行動」の展開、午後からは、岡山地方本部主催で倉敷駅前でのマイク・チラシ配布宣伝行動を結集した20名の組合員で、地域・JR利用者に訴えた。

JR岡山支社は、山陽本線では、2018年、庭瀬駅の窓口閉鎖を皮切りに、2022年11月に笠岡駅に「みどりの窓口」閉鎖、新倉敷駅は、10月に「みどりの券売機プラス」を導入し、11時から15時30分まで「みどりの窓口」が閉鎖する。

国労岡山地方本部、各支部は、こうした会社施策「非対面化の推進と利便性の向上、及び効率的な駅運営を目的」に対して、「駅の窓口を閉鎖していくことにより、利用者に対する利便性の低下、安全確保など公共交通の役割が果たせない」として、「鉄道の利便性・安全のため、駅の無人化施策に反対しよう!」の宣伝



行動を29日に取り組み、午前中、各支部での駅周辺で宣伝行動に続き、午後からは、倉敷駅までの、横断幕の掲示とマイク・チラシ配布による宣伝行動を展開した。

JR西日本は、今後も駅の窓口閉鎖を続けていく考えを示しているが、一方で、みどりの券

## 当面する行動

11/15 第1回支部・分会代表者会議

11/26 こくみん共済説明会

売機にならない方や、無人駅となり、無賃乗車の動向、さらには、ホーム要員がいらない中での特急列車や貨物列車との接触、ホームからの転落事故等、利用者の利便性や安全が脅かされ続けている。2005年尼崎列車脱線事故後、「安全を最優先する企業に生まれ変わる」としながらも本末転倒である。

さらに、JR西日本の赤字地交線の廃線を視野に入れた言動が見受けられる。公共交通の使命を果たす意味からも、まずは、各自自治体と協議を真摯に行い、地交線の維持・存続を求める。